

日系四世の回想～先祖の故郷・房州をたずねて

エヴァン・コダニ

(全米日系人博物館フランク・H・ワタセ・メディアアーツセンター・マネージャー)

2025年9月、私は全米日系人博物館 (JANM)、和歌山県立近代美術館 (MOMAW)、NPO法人安房文化遺産フォーラムのパートナーシップにより、日本への研究旅行に参加する機会を得られたことを光栄に思います。四世である私は長年、日系アメリカ人の歴史を映像で記録してきました。日本を訪れたのはこれが2回目であり、大人になってからは初めての訪問でした。この経験は、私の先祖が房総半島と深い絆で結ばれていたこと、そして彼らの物語を保存する取り組みが行われていたことから、さらに意義深いものとなりました。

1897年に千葉県南部からアメリカへ移住した曾祖父・小谷源之助は、私が生まれるよりずっと前に亡くなっていますが、今回の旅では、先祖の歴史を身近に見聞することができました。小谷ファミリーが住んでいた旧金澤屋跡地のお宅で昼食をとり、お墓参りをしたり、ポイントロボスのアワビ貝殻を見たり、長性寺で鐘を鳴らしたりと、想像以上の体験に驚きました。

安房文化遺産フォーラムが企画したツアーはとても充実していました。南房総や館山の芸術・記念碑・博物館・文化遺産をめぐり、地域全体への幅広い貢献がよく分かりました。池田恵美子さんと山口正明さんはとても素晴らしいガイドでした。第二次世界大戦の戦争遺跡や、映画スター早川雪洲の若い頃の様子などについて、より深く学べたことをありがたく思います。

しかし何よりも貴重だったのは、人と人の繋がりで、私の拙い日本語を謝らねばなりません。多くの人に出会い、そこから学ぶことができました。愛沢伸雄さん、鈴木政和さん、大場俊雄さん、溝口かおりさん、土佐静子さん、渡辺ひとみさん、そしてもっと多くの皆さんです。1世紀経った今も、繋がりの精神が受け継がれていることを嬉しく思います。

アメリカは日本移民に対して、常に歓迎してきたわけではありません。政府レベルでは不当な法律で土地所有や特定地域の居住を阻まれ、やがて強制収容に至りました。それでも個人やコミュニティが絆を築き、互いに支え合うことが妨げられることはありませんでした。それを今も、アーレン家をはじめ、日本人ダイバーや漁師、缶詰工場労働者と協力したモンレーの人々の姿に見ることができます。長い旅路で、差別に立ち向かった人々の物語は、日本とアメリカの歴史を豊かに深め、その影響は今日まで続いています。米国政府が再び移民の受け入れ



2025年9月、館山市のカフェ&ギャラリー船形倉庫にて関係者との交流。前列パネルボードを持っているのが、JANMのエヴァンとクリステン。中央が大場俊雄氏。

に苦慮するなか、多くの人々がそれを感じられることを願っています。

安房文化遺産フォーラムが地域及び我が家の物語・文書・遺品を保存する継続的な取り組みをしてくださっていること、そして皆さんが温かく歓迎してくださったことに感謝申し上げます。また、県境を越え、国境を越えたこの連携を育んでくださった和歌山県立近代美術館にも感謝申し上げます。これからも境界なく共に歩み続けましょう！